学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2024年10月15日
第40号

講演

SDGs・ウエルビーイングとは 未来を思い今すべきことを

第68回全道高等学校新聞研究大会の記念講演は「わたしの将来との向き合い方～SDGs・ウエルビーイングと自身をつなげる～」と題し、ワークショップデザイナーの髙橋優介氏が語られた。私たちが未来を思い描き、今すべきことを考える良い機会をいただいた。

現代はＶＵＣＡの時代
Volatility　変動性
Uncertainty　不確実性
Complexity　複雑性
Ambiguity　曖昧性
社会変化が激しく予測が困難

講師　髙橋優介氏（1980年生まれ）
ワークショップデザインdescribe with 代表
環境ＮＧＯで国立公園の環境保全や災害支援活動などに携わり、現在はＳＤＧｓや脱炭素・防災・ウエルビーイング・まちづくりなどのワークショップを手掛け、これまで学校・企業・自治体など全国各地で2000人以上が参加。

髙橋さんは石狩に数万人が集うライジングサンロックフェスティバルで環境ＮＧＯとしてゴミ分別の先頭に立つ。また、全国で環境、まちづくりなど様々なワークショップを手掛けている。以下は講演の概要。

変化の激しい予測困難な時代

現代は社会変化が激しく予測が困難なＶＵＣＡの時代と呼ばれる。だからこそ、現状を分析し、未来を思い描き、今なすべきことを考える必要性がある。

SDGsは2030年見据え

ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals・持続可能な開発目標、下図表）は２０１５年９月の国連サミットで全会一致で採択された。「地球上の誰ひとり取りこぼすことなく、全ての人が幸せになる」ための２０３０年に向けた17の大きな目標が設定されている。

地球の資源を使い込み

６年後の２０３０年には新幹線の延伸、ドローンの宅配、自動車の無人運転が実現しているかもしれない。ローカルからグローバルに視点を転じたい。８月1日は「アース・オーバーシュート・デイ」だ。地球上の水、土壌、空気には限りがあるのに、人類は未来の分も使ってしまっていることを意識したい。

経済・社会・環境の調和を

世界で児童労働に従事しているのは１億５２００万人、子ども10人に１人の割合だ。自助だけでなく、公助、共助を考えるのがＳＤＧｓだ。未来の私たちが幸せを感じられるような社会をイメージして、今の私たちの社会の幸せも考えていきたい。その際、経済・社会・環境の３要素の調和が求められる。キーワードは①誰も置き去りにしない　②私たちの世界を変革する　③３要素の調和、だ。

12「つくる責任つかう責任」フードロス削減で地球を救う

日本のフードロス２年間分で地球の年間の食糧不足を救える量だという。削減努力が求められる。

13「気候変動に具体的な対策を」進む温暖化、緊急対策を

温暖化が進み、２１００年に日本各地の気温がどうなるかをシュミレーションした。札幌でも夏に40度を超えている。対応策の強化が求められる。

14「海の豊かを守ろう」マイクロプラスチックの脅威

世界中の海に流れるプラスチックごみは年間で飛行機５万機分の重量になる。プラスチックストローは消失するまで３００年かかる。海洋プラスチックは細かく砕け、マイクロプラスチックと呼ばれるものになり、魚がこれを食べ、人がこれを食べる食物連鎖が起こる。日本人は１週間でクレジットカード１枚分（５ｇ）のマイクロプラスチックを体内に取り込んでいる。ほとんどは対外に出るのだろうが、人体への影響はまだ解明されていない。血液や肺の中にも見つかっている。

犬の散歩は何の役に立つか

3「健康と福祉」11「まちづくり」

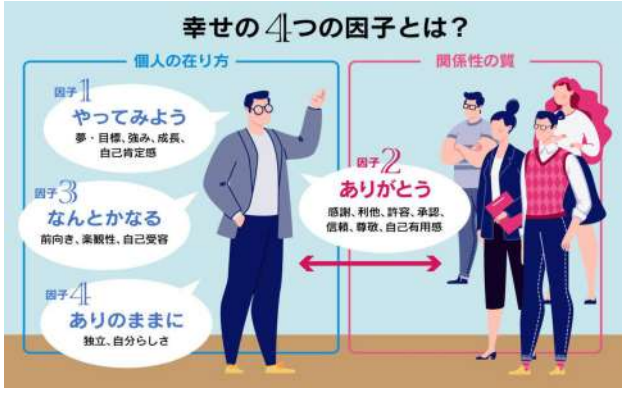
年配の婦人が犬の散歩をするのはどんな効用があるか。まず、当人の健康や福祉に役立つ。散歩することで地域の安全、防災に役立つ。また、犬を飼うことは経済成長にもつながる（８）。

地域の課題×資源＝プラン

例えば、企業の例ではadidasは海洋プラスチックを利用して靴を作っている。また、フードドライブの取り組みは食品ロスを減らし、食事に困る人に提供できるアクションプランだ。このように課題と資源をかけ合わせて新たな取り組みが生まれる。

ウエルビーイング 心身の健康、社会的にも良好

ウエルビーイングとは心身の健康だけでなく、満足した生活や幸福な状態、充実した状態などの多面的な感情、社会的に良好な状態を維持しているなど、広い意味での健康を意味する。その状態を作るには左図の４つの因子が大切だ。



バックキャスティングが鍵

世の中、そして自分の未来の姿、到達点をイメージし、目標実現のために何ができるかを考えることが必要だ。